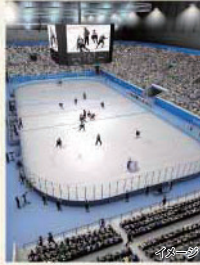


新月寒体育館

大会時 アイスホッケー会場
 【施設整備費】
 365億円▶札幌市負担214億円

【主な工事内容】
 ・体育館の建築(287億円)
 ・アイスリンク冷凍設備2面分(13億円)
 ・その他、周辺の整備など

【大会後の利用計画】
 ・体育館やアイスリンクの市民利用
 ・プロスポーツの観戦環境の整備
 ・継続的な国際大会の開催



現在の月寒体育館は
築51年

それらは建築や改修から既に50年近く経過していて、200年の大会がなくても施設の維持に建て替えや大幅な改修が必要なんだ。工事内容や利用計画は、次のように考えているよ。



内訳を見ると新月寒体育館、大倉山ジャンプ競技場、市営住宅月寒団地の金額が大きいくけど、何にそんなにかかるの？整備後の利用計画は大丈夫？

大倉山ジャンプ競技場

大会時 スキー・ジャンプ/ノルディック複合会場
 【施設整備費】
 78億円▶札幌市負担78億円

【主な工事内容】
 ・ノーマルヒルの移設(38億円)
 ・ラージヒルの改修(13億円)
 ・その他、整地や外構工事など

【大会後の利用計画】
 ・継続的な国際大会の開催
 ・観光地としての魅力向上
 ・宮の森ジャンプ競技場の機能集約による維持費の削減
 ・選手育成拠点としての機能の強化



大きな改修から
築52年

市営住宅月寒団地

大会時 選手村
 【施設整備費】
 157億円▶札幌市負担86億円

【主な工事内容】
 ・市営住宅月寒団地A～Eのうち一部を集約して建て替え(157億円)

【大会後の利用計画】
 ・市営住宅として利用

各施設はバリアフリーや省エネの視点も取り入れて進めるよ。



一番古い建て
築46年



施設整備費はここまでは。次月号では大会運営費を見ていくよ。



施設の老朽化は、ずっと前から想定しているよ。他の市有施設も含めて計画的に更新しているから、大会を開催するために増税はしないよ。

大会の開催によって将来的に税金が上がるか不安だわ。

ギモン3

ギモン4

オリンピック・パラリンピックの経費解説～前編



開催経費を見ていこう！

広報さっぽろ
キャラクター
ギウ太

3月に実施した意向調査の結果を受けて、皆さんからの疑問や懸念が特に多かった大会の経費について、2回に分けて解説します。【詳細】招致推進部調整課 ☎211-3042

ギモン1

施設整備費の考え方と内訳

考え方

老朽化した建物の補強や修繕など、オリパラがなくても施設の維持に必要な費用



施設所有者などが負担
 施設整備への一般的な国の補助制度が利用可能

内訳

札幌市が所有する施設	札幌市の負担	国の補助	合計	単位:億円
競技施設				
月寒体育館	0	0	0	
新月寒体育館	214	151	365	
つどいむ	4	0	4	
白旗山競技場	2	0	2	
大倉山ジャンプ競技場	78	0	78	
非競技施設				
新展示場(国際放送センター)	0	0	0	
コンベンションセンター(メインプレスセンター)	0	0	0	
市営住宅月寒団地(選手村)	86	70	157	
札幌ドーム(開閉会式)	24	0	24	
用地取得				57
札幌市以外の他都市や民間などが所有する施設 ^{*1}				合計
札幌国際スキー場、サッポロテニスコート、西岡バイアスロン競技場、ニセコエリア、さっぽろばんけいスキー場、真駒内公園屋内競技場、帯広の森屋内スピードスケート場、長野市ボブスレー・リュージュパーク				103

オリパラの開催には、施設の整備に多くのお金がかかるイメージがあるよ。札幌市の大会概要案では、具体的にいくらの負担を想定しているの？

大会概要案で示している予算は「施設整備費」と「大会運営費」の2つの経費に分かれているよ。今回は、札幌市の負担分約450億円を含む「施設整備費」を解説するね。



*各施設の仮設費用は、組織委員会が負担する(大会運営費)(次月号で解説)に計上

*計数ごとに四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります

*1 大会後の利用計画によって負担元が異なるため、施設所有者と競技団体などが大会後の利用計画を協議中

施設整備費算出の前提条件

物価上昇率

年0.4%

2030年までの9年分を乗じて計算

国の補助対象

以下の2つの施設を対象とする施設として想定
 ・新月寒体育館
 ・市営住宅月寒団地

現在の計画案は次のように、策定時点の物価上昇率や既存の国の補助金などを基に作成しているよ。



算出の前提条件にはどのようなことを見込んでいるの？